

## 日本国語教育学会熊本支部研究大会報告

今年も日本国語教育学会熊本支部研究大会が、十二月二十三日に三百人を超える参加を得て盛会裏に終えた。

本年度は、研究テーマを「言語活動の充実をどうすればよいか」と設定した。熊本大学教育学部附属小学校の下中一平先生が、新教材「かるた」(光村図書二年)において、単元を貫く言語活動を明確にした授業づくりについて提案を行った。説明的文章の学習指導において筆者の見方・考え方・述べ方を通して、自分なりの見方・考え方・述べ方を持った学習指導を目ざした授業提案がなされた。熊本市立五福小学校長の藤本典子先生、兵庫教育大学名誉教授中渕正堯先生と熊本大学の河野が助言を行った。

午後からは、次のような分科会発表が開催された。第一分科会：熊本大学教育学部生による実践と理論の統合による提案。第二分科会：文部科学省の委嘱開発校として三年間取り組んだ熊本大学教育学部附属小学校から研究部長の原口淳一先生と、井上伸田先生から論理科カリキュラムについての提案。第三分科会：熊

本市教育センター指導主事の前田康裕先生の「ICTを用いた国語科学習指導のあり方」。第四分会：「PISA型『読解力』を培う授業の創造―なぜ?を追究する国語科学習をとおして―」本年度熊本市研究指定校熊本市立白川小学校の研究主任宮村幸宏先生の発表。第五分科会：「参加体験型!中堅教師が放つ三本の国語科学習」熊本県小学校国語教育研究会の人吉・球磨地域の中堅教師である吉田憲一先生、山口徳晃先生、酒井康隆先生。第六分科会：「批評する力を高める作文指導」八代市立第七中学校の中村幸介先生の提案。第七分科会：「伝統的な言語文化を言語生活につなぐことができる主体的な学習者の育成」熊本市立白川中学校の北川純子先生の提案。

午後の都留文科大学の鶴田清司先生の講演では、九州各地から三百二十名ほどの先生方が集まり大盛況であった。「国語科における言語活動の充実―論理的思考力・表現力のために―」というテーマで、言語活動の充実のための今日的課題について、具体的実践事例を入れながら、国語科教育にとどまらない、他教科にも参

考になるお話をいただいた。参加者からは、次のような感想が寄せられた。

・普段の授業で論理的思考力をつける言語活動の充実を図らなくてはいけないと思った。根拠・理由・主張の三点セットをきちんと指導していかなければならないと思った。鶴田先生の講演から今後の国語指導改善の方向性が明確になった。

・具体的な事例を使ってワークショップ的な講演なので実際の授業場面を考えながら聞くことができた。また、理由と根拠の違いと必要性もよく分かりました。実際に今、担任をさせてもらっている子どもたちも理由づけと根拠を同じと捉えています。それは私自身の中でもあいまいだったためだとよく分かりました。具体的な事例も話していただいたので生かしていけそうです。・国語科の言語活動は「意識することが大切だ」と常に話題になっていきます。なんとなくではなく、考えて、ねらいを定めて取り入れる必要があると思います。写真の比較では分科会での討議内容でもある批評の題材として考えを深めることができました。

(熊本大学 河野順子)